



拡大中は景気浮揚困難

新型コロナウイルスの経済への影響はこの先の展望を見通すのが難しい状況だ。そもそもしつ頃感染の拡大が止まるのか予想するのが難しい。また、どこかの時点である程度感染の拡大を止めることができたとしても、それで問題が完全に決着すると安心することもない。100年近く前に猛威を振るったスペイン風邪の時も、感染爆発が2度起きていた。

よく、2008年の世界金融危機（いわゆるリーマン・ショック）と比べられることがあるが、状況

伊藤 元重 学習院大教授（国際経済学）

は全く違う。世界金融危機の時は経済の根幹である金融システムに問題があつて危機が広がった。それに対応する方法は、まずその金融危機を止め、景気が浮揚するように景気刺激をすれば良かった。

今回はウイルス感染という経済外的な要因で危機が起きている。

応を続けていくという見方もあつたが、それでは感染爆発や医療崩壊のリスクが高くなる。日本もついに全国レベルでの緊急事態宣言に踏み切つたが、海外からはそれでも日本の対応は甘いという批判もある。欧州では不要な外出をした市民には罰金を科している国もあるようだ。

対コロナ戦争下の経済政策

よく比較されるように戦争に似ている面がある。このウイルスとの戦争が行われている間は、経済活動は停止してしまう。そこでは何をやっても景気を浮揚させることは難しい。

あまり厳しい規制をかけないで、だましだましウイルスへの対

いずれにしても、ウイルスとの「戦争」状態にある日本ではどのような経済政策が求められるのだろうか。基本は戦争時の経済政策と似ている。まずは国民の生活を守ることだ。雇用支援や所得支援などを迅速かつ徹底して行う必要がある。この点でも、日本の動き

制限強化し短期決戦を

ウイルスとの戦争で守られるべきなのは、個人としての国民だけではない。企業などが倒産するのを防ぐために、雇用支援や休業補償などが必要となる。ウイルスとの戦争が終わった後で経済のV字回復を実現するためには、企業がしっかりと生き残っていることが前提条件となる。

もう一点、経済政策で鍵となる

のが、経済のさらなる混乱を防ぐということだ。重要なのは金融システムだ。多くの企業が資金繰りに詰まってくる。それを防ぐために、大胆かつ迅速な資金の提供が政府や日銀に求められる。

いずれにしてもウイルスとの戦争には勝たなくてはならない。それでもできるだけ早い勝利だ。ウイルスとの戦争が長引くほど、前述したような経済政策の継続が困難になる。所得補償や雇用支援などで政府が使える資金は無尽蔵ではないからだ。ウイルスとの戦争はできるだけ短期決戦にするように、もっと厳しい外出規制に踏み切る必要があるように思える。いまの状況を長引かせるほど経済への負荷も大きくなるからだ。